くにみ
第８号
昭和33年5月15日発行
発行所
国見町公民館
印刷所
福島民友新聞社

昭和三十三年度予算について

一、昭和三十三年度予算について　①地財法の適用による財政再建計画に基く財政の建全化は基本的堅持するものとする。

②一応現行制度による年度間の総見積りにおのものとして今後の制度改正による補正またはやむを得ない緊急のものは予算追加によって処置することとする。

③町政施行の重点は生産基盤の造成と町民福祉の向上とし町の事務事業および諸施設は効率的運営をはかり極力簡素合理化をはかるものとする。

二、歳入面について　①町税は課税対象を的確につかまえ徴収の適正化をはかって確保する町民税は増率を適用して減税をはかる。

②地方交付税は財政再建計画によって計上する。

③国、県、支出金は本年度の交付実績を基礎とする。

④使用料、手数料は本年度の付納実績を基礎にする。

三、歳出面について　①入件費は給与改訂に伴う経費を計上し昇給財源を努めて見込んである。

②物件費は本年度実績を勘案し極力節減をはかる。

③投資的事業は継続事業を完成に重点をおき経費の効率的公配分を主眼として計上する。

④補助負担金、寄附金は法定外は本年度実績の二割減とし極力節減する。

四、歳入の概括説明　①町税＝本年度に比し八九、三三八円の減町民税（現年度分）に対応して率を適用本年度に比し、二四五、七三五円の減税をはかる。固定資産税（現年度分）において平均価格の指示により、九九八、三〇五円の増税（家屋分五％率四・七％減、土地五％増）他の税は前年度実績により計上。

②地方交付税＝財政再建計画によって計上、本年度に比し二、二〇三、〇〇〇円の減ではあるが三十二年度は本年度に比し一・五％増額交付されるので相当額上回る見込みである。

③公営企業および財産収入＝前年度に比し、五、六〇〇円の増、ラジオ福島放送配当による増である。

④使用料、手数料＝本年度に比し一九八、六五三円増、第二種公営住宅建築二十戸の家賃と各種手数料引上げの平年度化による増額である。

⑤国庫支出金＝本年度に比し二、〇七五、〇〇六円減、前年度の交付実績により計上、公営住宅建設延伸に補助、ポンプ補助による減額である。

⑥県支出金＝前年度に比し五九、一九〇円増、保育所、勧業費等の補助増に伴う増額である。

⑦寄附金＝前年度に比し一、〇四九、五〇〇円増、簡易水道、研修キャンプ建設に対する寄附金の増額である。

⑧繰越金＝前年度に比し、〇〇〇円の増、前年度町財政の好転により相当額の繰越金が期待され、再建債の繰越償還に充当の見込濃厚である。

⑨雑収入＝前年度に比し四五、三〇九円増、前年度実績により計上恩給、共済組合個人納付金等の増である。

⑩町債＝前年度に比し、〇〇〇、〇〇〇円の減、公営住宅建設を翌年度に延伸のための減額。

五、歳出の概括説明　①議員費＝前年度に比し二五、三〇〇円の増、議員報酬の引上げに伴う平年度化と欠員中の議員一名分報酬計上等による増で、他は本年度とやや同額で、議長交際費は町長交際費一本化計上のため削減した。

②役場費＝前年度のため比し一、六弟四、七〇二円の増、職員の給与改訂による現員の平年度化と定期昇数減を加味して計上し、教育委員報酬の引上げを行った。

③教育費＝前年度に比し七三八、三四三円の増（枠外教育長交際費六〇、〇〇〇円を加え実績増七九八、三四三円）三十三年度教育基準財政需要額七、八四六、四三三円の一〇八％強に当り、小学校児童学級数の増加と中学校生徒学級数減を加味して計上し、教育委員報酬の引上げを行った。

④土木費＝前年度に比し一、二四八、四五八円の増、土地改良区長起債負担金、都市計画指定に伴う航空写真による図面作成等による増額である。他は前年度とやや同額である。

⑤消防費＝本年度に比し三三一、七四〇円の増、可般式動力ポンプ三台購入により増額である。他は前年度とやや同額である。

⑥社会労働費＝本年度に比し四、六二八、七〇〇円減、職員の給与改訂による現員の平年度化と昇給敬老年金給付等による増と公営住宅建設の他の経費は本年度とやや同額である。

⑦保健衛生費＝来年度に比し七、七五〇円増、大枝学校組合の当町管理に伴う児童生徒分の結核検診経費の増で、他はほとんど本年度と同額である。

⑧産業経済費＝本年度に比し一、八六八、六五九円増、職員の給与改訂による現員の平年度化と昇給農業委員の報酬の引上げ、新農村振興計画事業の一環である青少年研修キャンプ建設と農作物増産のための土壌検査機購入、営農指導員設置に対する農協助成費等の増額で他は本年度とやや同額である。

⑨財産費＝本年度に比し五三、六〇〇円増、公営住宅建物保険料、修繕費等による増で他は本年度とやや同額である。

⑩統計費＝来年度に比し五〇〇円減、食糧金削減による減で他は本年度と同額である。

⑪選挙費＝来年度に比し一〇六、八〇〇円の増、選挙管理委員報酬の引上げ、町長、衆議院議員選挙による増額で他の費目は本年度同様である。

⑫公債費＝本年度に比し四五一、五二六円の増、長期債元金の据置期間に入っての増額である。

⑬諸支出金＝本年度に比し一、〇〇一、四七九円減、前年度繰上充用金の削減と繰出金の簡易水道施設費の分増と相殺しての減額である。

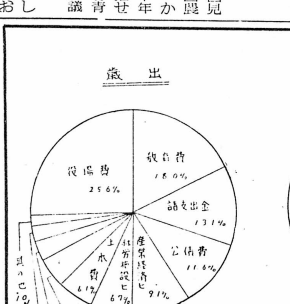
予算表

【歳入】

	昭和33年度予算額	昭和32年度予算額	増減	百分率
税	23,348,000円	23,437,338	▲89,338	49.8%
付税	16,482,000	14,086,000	2,396,000	35.1
収入	5,600	0	5,600	
財産収入	1,722,100	1,523,447	198,653	3.7
交付金	2,793,250	4,868,256	▲2,075,006	6.0
使用料及手数料	1,011,754	972,444	39,310	2.1
支出金	1,050,000	500	1,049,500	2.2
繰入金	1,000	0	1,000	
繰越金	529,201	483,892	45,309	1.1
諸収入	0	1,000,000	▲1,000,000	
町債	46,942,905	46,371,877	571,028	100
合計			増減	百分率

【歳出】

	33年予算	32年予算	増減	百分率
議会費	777,800	652,500	125,300	1.6
役場費	12,002,553	10,327,852	1,674,701	25.6
農業費	2,102,920	1,771,180	331,740	4.5
労働費	2,848,458	1,600,000	1,248,458	6.1
衛生費	8,436,000	7,697,657	738,343	18.0
土木費	3,143,313	7,772,013	▲4,628,700	6.7
教育費	1,256,075	1,248,325	7,750	2.7
公債費	4,267,674	2,401,015	1,868,659	9.1
諸支出金	111,921	58,321	53,600	0.2
予備費	88,500	89,000	500	0.2
議会費	246,300	138,500	106,800	0.5
消防費	5,456,886	5,005,358	451,528	11.6
社会福祉費	6,155,522	7,157,001	▲1,001,479	13.1
産業経済費	46,983	452,155	405,172	0.1
統計費	46,942,905	46,371,877	571,028	100



青壮年属の努力みのるか
大板蔬菜組合の成果

青壮年層が中心となって作りあげ、その努力によって今さかんに活躍している農産物の生産出荷団体に「大枝蔬菜組合」がある。これは大枝の川内を中心として組合員四十三名で組織し、トマト、西瓜、法蓮草等川内特産の野菜類の生産増強と共同出荷を計画的且つ組織的に行う団体である。

この組合には果菜部（トマト西瓜、南瓜）葉菜部（法蓮草）根菜部（長芋、牛蒡）があり、それぞれ部長が中心となって組合員の一致協力の下に涙ぐましい努力を続け、毎年大きな成果を上げて貰い川内部落の経済をうるおしている。

今その例として本年度の事業成績を調べて見ると、これら野菜の共同出荷で得る総収入は年間約二五〇万円に上り、川内部落の産米総売高に相当する金額である。その内でもトマトは約二〇〇万円で川内の一年間の養蚕の収入に匹敵する。

川内部落は他に比して裕福な地方ではなく、自家保有米を残して政府に米を売渡せる農家は数える程しかない上、途中で米の配給を受ける農家が大半でそちらかいう畑作中心のこの地方には野菜の生産出荷が川内の農業経営に大きな地位をしめている。

そこに潜眠した若い青年は今大きな希望と強い忍耐と涙ぐましい努力によって着々この蔬菜組合を育てているわけである。

そこで去る二月二十日には半沢町長さんを始め山台、東京の出荷先市場より多数の来賓を得て総会を開き、左の努力目標を満場一致で採択し、トマトは反当十万円、法蓮草一人千貫以上生産を目指して努力することになった。

【努力目標】一、共販体制確立と組織機構の整備。
二、栽培技術指導による生産性の向上。
三、立地条件上における特産物の育成。
四、自治統制と時間励行。

出事上った水道工事
直ちに第二工事へ

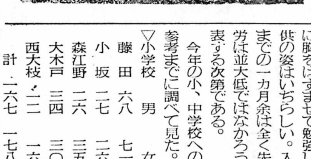
去る一月遅れした我が町の簡易水道工事は改雪荒れる厳寒の日も突貫工事で進められて来た第一期工事も順調に進み、最初の計画どおり一百三ミリのヒューム管一、一二四米、五十ミリの管は一、一七八米の埋管工事はもう出来上り、工事の為に荒れた道路もすっかり復旧された。

ここで水源地と涌水量を紹介したい。水源地は大字徳江字下河原で阿武隈堤防の直ぐ近くに五八三坪を買収したもので現在水源地ポンプ室、三坪のメッキ室が建築されているが簡易減菌機二台が備えられて完全な消毒される。

ことになっている。水が入ると家の中はより美しくなるというが、水こそ生活とは切っても切れない必要なもの文化生活は水の便利をよくすることによってより向上することは否定できない。

その結ついた水道工事だが今後全町民が一丸を契機として主婦の負担を軽くし家庭生活の合理化を図るために努力することが必要だと思う。また新都市計画推進指定町村に編入され、今後この水道工事の成功は大きく、工場誘致も期待する町民の姿もこの水道工事を機によりよく変っていくだろう。

遠い夢ではなく町民が期待する町の姿もこの水道工事に期待する。



【写真は⑥水源地風景 ⑦埋管工事】

元気で学校へ
今年の一年生

野も山も若葉におおわれた五月も中旬となった。教育予算や勤務評定で騒いでいる大人の世界をよそに生まれて初めての集団生活に入った小学校への入学児童は一カ月余の登校にも馴れて優しい先生の声に耳を傾け熱心に勉強している。

今年度の入学児童は終戦後六年を経て安定した国内情勢の中に戦争という悲惨な苦しみは忘れ去られ復興への明るい音も高い二十六年に生まれた子供達である。そして今人工衛星が飛び、原子力の平和利用も盛んに呼ばれ全世界を挙げて平和の維持に努力している時小学校への入学を迎えた訳だ。今年の小、中学校入学生の差は大きく教員異動の問題点ともなったが中学への入学生が一般に少ないことは実に戦争の厳しさを物語っているが終戦子が中学校へ入学したわけだ。

然しこうした事には一切無関心ひたすらにすべてが珍らしい世界に胸をときめませて勉強している子供の姿はいちらしい。入学から苦労は並大低ではなかろう。敬意を表する次第である。

今年の小、中学校への入学生を参考までに調べて見た。

▽小学校	男	女	計
藤田	六八	七一	一三九
小坂	二七	二六	五三
森江野	二六	三五	六一
大木戸	三四	三〇	六四
西大枝	二一	一六	二八
計	一六七	一七八	三四五

写真は入学式情景＝藤田小にて

▽中学校　藤田七六、小坂二九、森江野四三、大木戸三五、大枝四二、計二二五

農業講座開設

国見地区農業改良指導所では国見町公民館の後援を受けて第五回農業青年講座を開くことになり、かねて生徒募集中であったが、本年は各部協や農業改良推進員の推せんにより、特に優秀な前途ある青年が選ばれ、去る二日役場小会議室で開講式が行われた。

この講座は、将来農業に従事し農業をもって身を立て、家をおこし、郷土振興の礎石となろうとする熱意ある青少年に対し、農業の基礎知識並に技術を授けかねて一般教養を高め、社会性を養い、もって町作りに従事せんとする入格を養成するのが目的で、期間は一ヶ年一月分三月末日まで）これまで三回を数え八十五名の卒業生を出している。

尚本年度の受講生は次の通りであり、女子十名の追加募集をしている。

▽小坂方部＝安積真夫、安藤酉夫、鴨田恭一、鴨田太作
▽藤田方部＝斎藤清、佐藤長喜、中野忠重、吉田良夫、小野光一、後藤喜弘、吉田豊美、内村忠昭、大津征四郎、佐久間成章、菊地孝一、村上幸夫、高橋守雄、佐藤健一、徳江政男、徳江征一、村上邦男、佐久間衛
▽大木戸方部＝菊地久恒、遠藤ミヨ、佐野トヨ、谷津英子、毛利英隆、松浦功、酒井勝子、松浦智義、八島進一、佐藤光信、瀬戸隆衛、佐藤要蔵、木村孝、瀬戸隆衛、佐藤要蔵、木村展雄、小林成三、佐藤正和、鈴木徳治

住みよい町づくりは話し合いから

国見町公民館は伊達官内公民館連絡協議会や県教育委員会伊達出張所の後援のもとに、さる二月二十四日午前九時より町役場楼上において町内青年団、婦人会、PTAならびに公民館関係の代表者百二十余名が相会し「住みよい郷土を建設するためにはどうしたらよいか」というテーマで研究会を開いた。会はまず各層代表による役割劇（ロールプレイング）「新生活をはばむもの」によって問題点を提起された。次に三つの分科会にわかれて討議をし、午後全体会議でとりまとめ、講師田村操先生のユーモアたっぷりの指導ならびに甲の上に⑥の講師をいただいて午後三時閉会した。当日集まったのは各方部各団体の代表者だけあって、住みよい郷土建設の熱意にあふれ、役割劇に表れた出演者のことばのはしばしにも、各分科会における討議の発言にも、きわめて確心をついたものがあり、こんこの新町村建設運動を推進するために大きな示唆を与えるものがあった。次に各分科会で討議された問題点を略記する。第一分科会新生活運動を推進するにはどうしたらよいか。

▽司会者＝後藤雅子／記録者＝瀬戸栄一▽助言者＝早田盛

○中国では国家機力によってカやハエをなくし、売春や泥棒をなくしているが、日本は個人の自覚によって新生活を進めるべきである。

○時間厳重は定時励行から。

×　時間を盗むことは物や金を盗むと同じである。定時におくれることは罪悪であるとの考えを持って。

×　自分で招集する場合はもちろん、招集される場合もみんな相手側の気持になって協力しょうというもの。

○結婚の改善について

×　民主的な結婚について親も子もよく研究し、幸福な人生の門出としてふさわしい結婚をすること。

×　結婚式の簡素化については当事者の自覚と勇気、仲人や社会の善意ある協力が必要である。

×　祝宴の一聴や持参品、嫁仕度などについて周囲の者はかれこれ批判やおせっかいなどしないこと。

×　不要不急の家具調度品などを並べることをやめ、現金または貯金としておき、必要に応じて用意する。とかく贅品付の売物は節外れの粗品が多い。結婚とは人間の結び付で贈物や持参品は贅品のようなものだ。

×　披露宴はレクリエーションではない。

○年末、年始の訪問や行事のために費されるお時間、労力、金銭の失費のむだをはぶくことについて

×　一番しわよせされるのは主婦である。一家そろって楽しめる正月、犠牲者のない起居月は考えられないものか。

×　年直しをしないため、後日なんだかんだいわれると誰でも気持がわるい。

気持よく飲んでいるうちはまだよいが、過ぎるとけんかはまだよいが、過ぎるとけんかはまだよいが、飲む者が悪いのか、飲ませる方が悪いのか、わからなくなってしまう。

×　厄払いや年祝の費用を節約して婦人の地位の向上や社会公共の福祉増進のために寄付するというような気運がボツボツ出はじめたことはうれしい。

○嫁が農家の嫁をきらうことについて

×　百姓は苦しいのが当然だとする観念を改め、楽しい家庭をつくる、人生は楽しくやりたいという考えをもつことが必要である。

×　嫁は自分の時間がない。夕食後など自分の時間がほしい。

×　世間の口やうるさい。

×　農家の嫁はつかいにくいこと困っているものが多い。結婚当座は実家の親からもらわれるが、十年もたつとそれもできず、一家の財布は年寄りが持っているので、子どもの教育費さえ自由にならない。受胎調節といっても資金がなくてはなかなか実行できない。

×　新聞や本をよんだり、婦人学級やPTAの会合に出て勉強することができない。

×　青年時代に考えていた理想も夢となってしまう。

×　いくら時代が変っても、姑はいつまでも姑でしょう。

○民主的な家族関係について

×　親としてまず子どもに対する希望――立派な人になって親に安心させること、どこまでも行って親孝行を忘れないでほしい。

×　若い者から親への希望

△　農業経営に新しい技術を取入れようとする場合、親の同意と理解を望む。

△　親が一方的に親孝行を望むのは無理、親は親らしく、姑は姑らしく。

△　食後の一時など、一家団らん話合をしたい。

△　父親も新しい勉強をして息子や娘と共通の話題で話合ってもらいたい。

×　家の仕事や経済のことについて家内一同よく話合うようにし親父のワンマンを避けたい。嫁が家計簿をつけ、姑が財布を預っている家庭、家計簿を中心にみんなで話合っている。

○最後に新生活運動をすすめるために

×　みんなでよく話合い、よく考えて、個人でできることは個人でやる。

×　部落や町や団体でやった方が効果的なことはみんなでしっかりと申合せて実行する。

×　「俺のまつた馬鹿はさせ行ったって……しゃべったって……」と半は自暴的になっている人たちに正しい自覚を与える。またこれ「なんぼまるのいだってそんなこと……」とあきらめている人に勇気を与えるために何か組織がほしい

×　今日集まって話合った人はそれぞれ部落に帰り、部落や家の人々によく話してやること（以下次号）

写真上は共同討議、下花嫁衣装

合理的な施肥に

小坂地区で土壌調査

稲作りに畑作物の栽培についても、肥料の配合や施し方は殆んど長年の経験によるカンや真似でやっておるために倒伏や病虫害による減収がたえず繰返されている。この不安な栽培を改善しての増収を期待するためには土からの部分を見た上では完全にはこえずむしろ今迄殆んど検討されなかった根の部分を知ること、切だこと先進地長野は勿論、近くは太田、粟野もこの「土の診断」即ち土壌断面調査を行ったが小坂地区に於ても農業改良推進員会、農協、農青連、青年団、農事研究会がいても一体となり、小坂地区施肥合理化推進協議会（会長菅野秀明氏）を結成し、去る三月より調査を始め初年度計画分の実地調査をこの程終了、今年の稲作に間に合うよう急いで分析検討をすすめている。

土壌断面調査とは圃場に一メ巾深さ計るもので、その成果は計算に基いて、その圃場の欠点や、配合、並びに施肥量まで科学的に算出し施肥の設計、土壌の改良を行われるもの。尚この調査費用は農協から支出された。

これに最も適した肥料の種類、

この調査は三カ年計画の予定で今年は水田一町歩に一点宛の割合で行われたが次年度は五反歩に一点、三年度は畑園地を対象に行われる。尚この調査費用は農協から支出された。

用意できた花嫁衣装

大木戸部落

「何事でもみんなで相談して決めよう」と言ってもいざとなると異論百出、何事でもなかなか決まらないのが世の常である。然しみんなが協力する心がこまく合って実を結び、集会場の改築や遂に花嫁さんの貸衣装まで揃えたと言う明るい部落の話を紹介しましょう。

この部落は大木戸部落一部落長阿部富徳さんで同部落では去る昭和六年頃部落の中央に青年会館として建てられた現在の集会場とその後作った作業場を中心に部落のより発展を図るためいろんな会合を持ち、籾搾り作業や糧米などの経済事業もやって円滑な運営を行って他部落の模範となっていた。

この大木戸部落では今から四年ほど前部落内のみんなが心易く利用できるようにと婆を用の杯や徳利更に雌蝶雄蝶をはじめ祝箸、タンスの覆布など御祝儀道具の一部を用意、改善の一策として来たが昨年の暮頃一部の人達の発案で何んとか花嫁衣装も揃えたいものと言うことになり当町のH呉服店に花嫁衣装のほか頭髪の道具一式を約五万二千円で発注した。

また二方部落内のあゆゆる会合の場である集会場も現在では部落会をはじめ青年団や婦人会、農事研究会消防団など各団体の利用が非常に多くなり、度々同一会場に二つ以上の会合が開かれ、不便を感じる様になったため この際隣並びの作業場と接続し、小会議室を設けて利用度を高めようと言う集会場の増改築案が採決され直ちに着工し、青年団や部落会の人達の労力奉仕などで工事はグンと捗り、特に集会場には有志者の寄付した槙の床柱で立派な床の間も作られ去る二月はじめ出来上った。そして待望の花嫁衣装も届いて部落のみんなが木の香も甦った集会場に集まり、新しくなった柱を撫でたり晴着の袖をとって喜び合った。

また炊物も全部新しく購入したので見違える程立派になり、今では一緒に三つの会合が出来るようになった。そして花嫁の貸衣装も今のところ一回三千円で貸し出しており、この五月はじめまでに部落内外九人の嫁さんの晴着となって好評を呼んでいる。このように部落中みんなの自覚と協力が新しい時代にふさわしい住み良い部落を作ったもので、これがやがては遠の新しい町づくりに役立つであろうことを特に記して筆を置きます。

国定資産の評価と

昭和三十三年度分

国定資産の評価の基準について

税務課では昨年度より管内の家屋評価を実施したのですが種々御迷惑をおかけしたことと思います。何故曽て評価したのをまた実施しなければならなかったかと申しますと根ね厄記の点にありましたので宜しく御諒察願います。昭和三十年に地方税の改正に伴い固定資産の評価に基準年度を設けその第一年度を昭和三十三年度とされ今後四年目毎に改訂されることとなった。現在までの評価は合併前のもので其の評価額を調整して後合併すればよかったのであるがかかる措置をとられていなかった地区によって凸凹があり随って課税の均衡上から是正する必要が認められた（随って昭和二十九年度に大枝地区のみ再評価を行い、それを中止しているものがある）以上のような理由があったので議会には諮って実施したいと思って居りますので若し実施する段階に至った際は宜しくお願い致します。而して評価の方法ですが、これは自治庁で示した評点表を用いて居るので規格に対して一定の評点を求めて算定されるのですから公平に出来る仕組になって居りますが既に新聞などでも御承知かと思いますが、自治庁通達によりまって評価基準は土地については平均五割引上げ家屋については逆に五割引下げることとなって居りまして平均価格が算出され、その平均値によって固定資産評価を実施することになります。

土地田	昭和32年度指示平均価格	×1.04×1.00464627 調整率という	＝昭和33年度平均指示価格
畑	〃	×1.04	＝同上
宅地	〃	×1.050761	＝同上
山村	〃	×1.049968	＝同上

家屋については昭和32年1月1日現在の総価額を基礎として場合昭和22年度家屋の平均指示価額対比95.3%

現在の固定資産につき算定し二月一日より二十日間、役場に縦覧に供することになりますので御諒知願いたいと思います。（国見町役場税務課）

暗幕できる（森江野小）

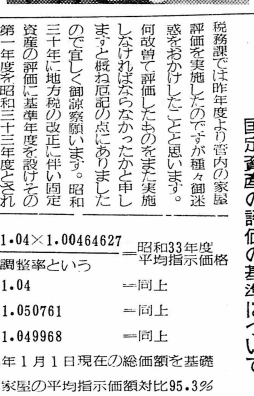
地区民の協力みのって

映画や幻灯による視聴覚教育は学校における子供たちの教育はもちろん、大人たちの社会教育にも最も効果的で必要欠くべからざるものであります。然るに森江野小学校には講堂の照明設備がないため非常に不便を感じていたわけです。そこで同校のPTAでは会結成十周年記念事業の一つとしてこの設備運動を展開し、地区民の協力を得て見事に完成されました。

昨年十二月二十日、二十五日に開催された農業文化祭においてPTA役員総出動によってだんだんの販売をしました。これは全地区民から寄付していただいたたくさんの米とあつきを原料として作り「ぼたもち」と名付けて文化祭に来た者に買っていただき、みんなに大いによろこばれるご評判に相当の利益をあげたわけです。次に映画会を開いてみなさんの協力を受けたがまだまだ予定額に達せず農協からの多大の御寄付を受けたがまだ十分とはいかず、その不足分を地区民の理解の協力を受けることにしました。とこころがこに至って郷土民各位の郷学校の精神が俄然爆発し、たちまち予算額十万円を突破し、ようやく永年の念願がかなったわけです。

こうしてみんなの協力によって学校の設備を二つ一元完実していく姿に感謝し輝くうるわしいものと信じます。

【写真説明】



【写真説明】

結核検診三年目の成績

昨年十月一日、藤田地区を皮切りに実施した昭和三十二年度の結核検診を以て二応帯りなくすみました。今年度は結核撲滅運動第三年目に当り、全国表彰を受けた直後でありましたので、全町皆様方の張り切り方は大したもので お互に自分の健康の保護と社会全般の福祉に対し、いよいよ深い御理解のもとに予期の成績を挙げ得ましたことは御同慶に堪えません。

各地区、各部落別の正確な受検率は追って発表いたしますが、大凡全町の受検率は九六%程度で残った未検者のため、もう一度第三次検診を行いますので結局は過去三ヶ年での驚嘆の成績を修めることと確信しております。御協力の皆々様に紙上から改めて深甚の謝意を表します。

（三・一・二・一七）

先生の異動

去る四月の県下教職員異動で本町にも次のような先生の異動がありました。

氏名	旧任	新任
精	藤田小	桑折小
同	早田小	附属小
佐藤ヒロ子	佐藤喜珠	桑折小
同	森江野小	半田小
北島	北島	桑折小
誠倖	誠倖	大枝小
大戸小	小川	桑折小
同	根本	大枝小
大戸小	恵見	同
同	市郎	県北中
同	横山	翼野中
同	高橋	五十沢中
同	勝雄	半田小
同	カノ	半田小
同	永瀬	保原中
同	宮根	飯坂中
同	郁子	飯坂中
同	小松	同
同	隆家	同
同	菅原	同
同	元三	同
同	高橋	同
同	典昭	富成中
同	牧野	同
同	警	大木戸中
同	廉郎	大木戸小
同	鈴木	水保小校長
同	牧野	森江野小
同	武夫	藤田小
同	金佐	退職
同	斎藤	大木戸小
同	千代	大木戸小
同	斎藤	県北中
同	ナツ	大木戸小
同	羽根	小坂小
同	代子	森江野小
同	多勇	藤田小
同	勝美	森江野小
同	源吉	大木戸小
同	永瀬	県北中
同	小川	藤田小
同	庭子	同
同	鈴木	同
同	キヨ	同
同	佐藤	同
同	タケカ	同
同	菅野	同
同	キン	同
同	桑折小	同
同	小根山	小坂小
同	伊達崎小	同校長
同	菊田	下山園小
同	芳宏	大木戸小
同	菅野	桑折小
同	真雄	飯坂中
同	金吾	県北中
同	鈴木	同
同	遠藤	同
同	昌	同
同	石幡	同
同	セツ	同
同	石川	山岸中
同	氏家	五十沢中
同	高山	保原中
同	俊夫	県北中
同	斎藤	県北中
同	豊七	森江野小
同	菅原	大木戸小
同	章	県北中
同	源治	桜の聖母（新任）
同	斎藤	同
同	雅子	同
同	進	県北中